

「2020年 住友理工グループ Vision」の策定について

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長兼 COO：松井徹）はこのたび、2020年度までの中期経営ビジョン「2020年 住友理工グループ Vision（2020V）」を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 2020Vの策定

中期経営計画「2015年 住友理工グループ Vision（2015V）」においては、M&A実施によるグローバル供給体制の確立、商号変更、グローバル本社の設置など、「変革と成長」に向けての事業戦略を進めてきました。売上高は4,200億円の目標に達したものの、新製品開発コストの増大、M&A対象会社の収益悪化、新規顧客開拓の遅れなどにより利益目標を達成することができず、収益力の向上が課題となりました。

2016年度から始まる2020Vにおいては、2029年の創立100周年に売上高1兆円の達成を目標とし、2020年度までをその仕込みの時期と位置付け、Vision テーマを「着実な成長」と「体質強化」に設定しました。また、2015Vの残課題と外部環境変化を踏まえ、「環境技術強化」「モノづくり革新」「新規顧客開拓」の3点を2020Vの経営戦略としました。

2. 2020V 経営戦略

(1) 環境技術強化

多くの国・地域において温暖化防止の活動がなされる中、地球環境の保全は各国政府の施策にとどまらず、企業の責任であると考え、当社グループもこれらに積極的に取り組みます。具体的には、環境配慮型製品（燃料電池車向けセル用ガスケット、窓用高透明遮熱・断熱フィルム、ドライバーモニタリングシステムなど）の開発、環境規制対応技術（燃料蒸散規制対応、製品軽量化）の開発、事業活動におけるCO₂排出量の削減・水資源保全・環境負荷物質の使用量低減などに取り組みます。

(2) モノづくり革新

当社グループは創業以来のモノづくり企業として、2020Vにおいてもモノづくり革新を進めます。技術の進歩が著しいIoTや情報処理技術などを積極的に利用し、「SRIM 20 Act」としてグループ一丸となって投資・仕掛・リードタイムを2分の1以下とし、生産性2倍、災害ゼロを目指します。この活動は、製造部門だけでなくスタッフ部門も含めたグループ全体で実施します。

(3) 新規顧客開拓

既存事業においては、23ヶ国105拠点のグローバルネットワークや、新たに設立する自動車新商品開発研究所（仮称）を活用し、グローバルマーケットにおける拡販活動や、自動車以外の事業についての海外展開を積極的に進め、新規顧客を開拓します。

3. 2020V 数値目標

(1) 財務目標

売上高	5,300 億円
営業利益	320 億円
営業利益率	6.0%
ROA (営業利益/総資産)	7.0%
ROE (純利益/株主資本)	8.0%

(2) 分野別売上高

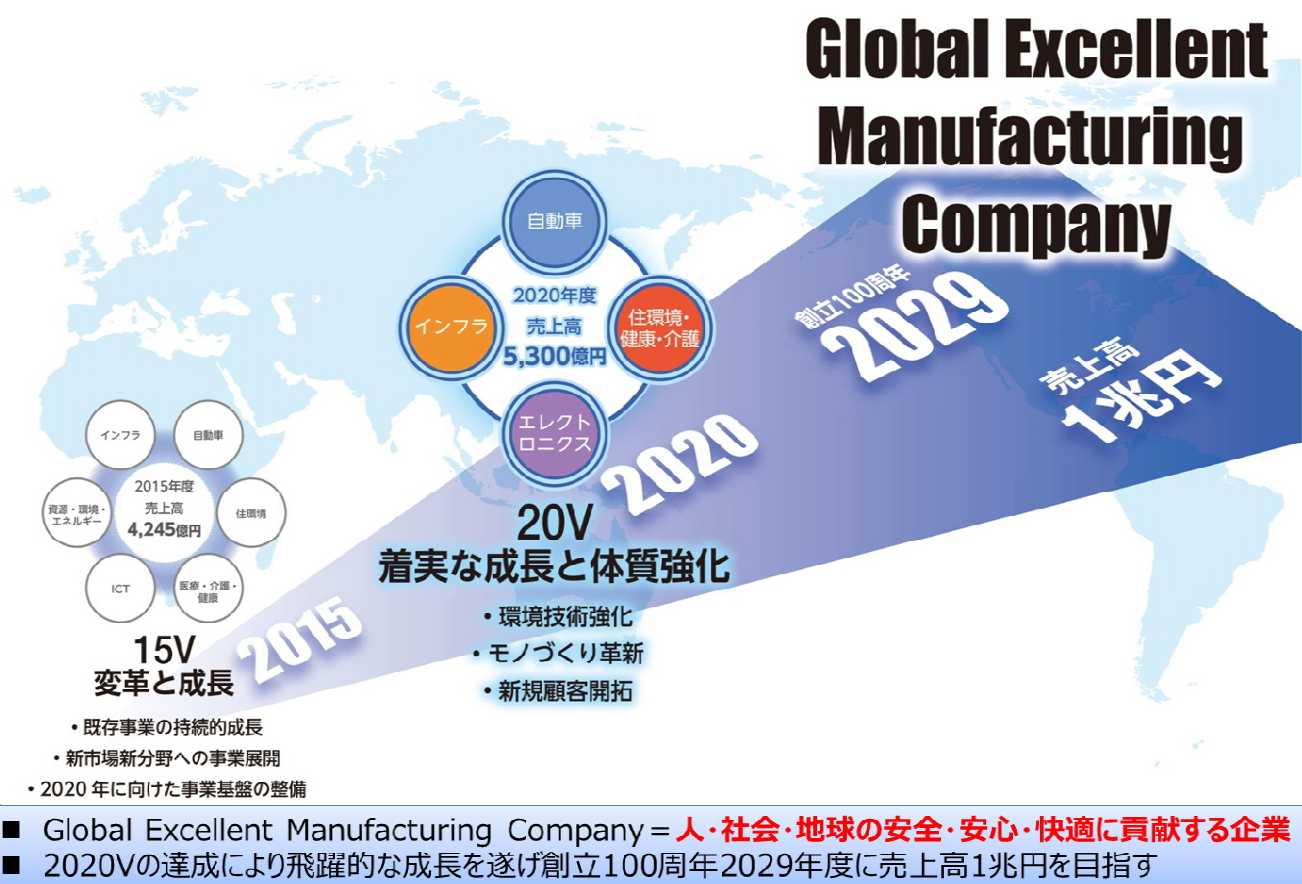
自動車	4,300 億円
エレクトロニクス	400 億円
インフラ	400 億円
住環境・健康介護	200 億円

4. 2020V 非財務目標

従来の CSR (企業の社会的責任) や、近年開示が求められている ESG 情報などの非財務情報については、CSR 活動の 2020 年度における目標値を明確にすることで活動を推進します。

項目	目標
① CO ₂ 削減	8%削減 (2015 年度対比)
② 廃棄物・VOC 削減	5%削減 (2015 年度対比)
③ 水使用量削減	排水ゼロ
④ 労働災害全度数率	災害ゼロ

<2020V ビジュアルイメージ>



以上

[リリースに関するお問い合わせ先]

広報部 TEL.052-571-0259 www.sumitomoriko.co.jp